

平成 22 年度予算について

市長施政方針

3 月市議会定例会の演説より抜粋

ただいま上程されました平成 22 年度山陽小野田市一般会計予算ほか諸案件の提案理由の説明に入るに先立ち、平成 22 年度の予算編成と施政の概要について、その基本的考え方や特徴をご説明したいと思います。

平成 21 年度を顧みますと、長引く不況、そして政権交代など、先行き不透明のまま、波乱の影響は今もなお続いています。まさに政治・経済ともに激動の時代に突入したかのように見えます。

しかし本市におきましては、合併後発覚した破綻寸前の財政状況を市民の総力戦で乗り越え、市債残高を約 50 億円減らし、市職員の退職金についても、これまでの借金体質を改め、必要額をほぼ自前で予算化するとともに、将来に備えた退職手当基金の積立が可能なところまで財政状況が回復してまいりました。もっとも山陽市民病院の多額の不良債務の後始末や、土地開発公社経営健全化のため本市の公社に対する土地買取義務が総額 14 億円に上ることなどを考えますと、財政状況の回復もそう単純には喜べず、まさに「ふるさとの春まであと一步」の感があります。

もっとも財政状況を示す財政指数の好転から、合併特例債の活用が現実のものとなり、残された数年の使用期限内に、全市内の教育施設の耐震化を始め、生活インフラともいべき老朽化した環境衛生関連施設の更新等、全市民にとって有益な事業に合併特例債を充てたいと考えており、平成 22 年度予算にも一部の先行事業費を計上しております。

今年度も、更なる財政健全化を市政の基本的スタンスとしつつも、市民生活のあらゆる面への公正公平な配慮を忘れず、総合計画で本市の目指す「活力ある住み良さ創造都市」の実現に向けて一層の努力をする決意ではありますが、市民のみなさんと「このまちの未来のために一緒に考え、ともに汗を流す」ことができれば、と願っております。

昨年度は本市の「住宅リフォーム資金助成事業」で元気が出たという市民の声がたくさん届きました。山口県内では本市のみが取り組んだ期間限定の事業でしたが、小さな予算でその約 10 倍の事業が創出され、大きな喜びが生まれました。平成 22 年度も、市民の声をよく聞き、しかるべき時期にこの制度の拡充を図りたいと考えておりますが、第 2、第 3 の「住宅リフォーム」も期待しておりますので、市民のみなさんのお知恵をどうぞお貸してください。

以上、厳しい社会・経済情勢ではありますが、「選択と集中」を加速し、市民本位の視点に立って、限られた財源を最大限有効活用し、職員と一丸となって、諸施策の推進にまい進していく所存であります。市民のみなさん並びに議員各位の御支援・御協力をお願い申し上げまして、平成 22 年度の施政方針と予算編成の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。